

## 関西テキスタイルデザインスクール日記-2

第二講座は服地問屋がアパレルへアプローチする立場からのMDについて。年代やテストによって細分化され、なお且つめまぐるしく変化するファッションマーケットをどのように把握し、モノ作り計画にリンクさせるか！ 消費者の「買い損ね」を切り口に企画、またマス否定するところから始まるオリジナリティの企画などなど、さまざまな発想と企画のあり方を実現場からの声として語っていただきました。

第三講座はインテリア。インテリアメーカーとして、プロダクトアウトからマーケットインへの企画変化。同業は勿論のこと異業種からの参入による競合にも負けず、独自のコンセプト設定からモノ作りのプロセス、プロモーション計画までを実際のマップや資料を基に話を伺いました。

ここまででは、さまざまな観点から『今』というものを解きほぐし、掘り下げてきましたが、ここからは『明日』を考えるという段階に入ります。現状を理解・把握することは当然、必要かつ重要ですが、私たちデザインに関わる者がチャレンジして行かなくてはならないのは、実はここからなのです。20世紀の枠組みと発想の常識を超えて、新しいデザインをクリエートするには、何をどのように捉え、考え、行動しなければならないのか!! ちょっと大げさかも知れませんが、そのようなことを締めくくりに向かって真剣に考えてみたいというカリキュラムセットなんです。

■ スクール9(2月8日)は『「明日」を創る』というテーマのもと、明日に生きるために、これからのテキスタイルデザインの方向・価値創造を考えていこうという講座です。

第一講座は「時代に先駆けて／ITとテキスタイルデザイン」という観点から、21世紀の新しいアート&クラフト運動と、コンピューターとのワークシェアリングの薦めを提案いただき、デザイナーのクリエイションに対する新しいアプローチを考えさせるきっかけとなるものでした。

第二講座は、ファッションテキスタイルの明日／コスチュームデザインからの提言、という切り口で、アンケート調査に基づく「世代間におけるファッション意識と行動」という分析結果を報告・紹介いただき、複雑に異なった反応を示す消費者の実態を改めて認識することが出来ました。

第三講座はインテリア。スペースデザインからの提言です。建築とインテリアの狭間・矛盾、ハウジングメーカーの効率を優先した住宅と購入者が持つ価値観、風景として見たときの住宅の在り方など課題・問題の多さを指摘。今こそ、人が住み・

暮らすという『生命と心』の視点からのアプローチがいかに重要であるかを気付かせる内容でした。

以上が9回までの概要です。スクールとしては、まとめの講座と終了セレモニーを行う「スクール10/3月8日 21世紀に…何を残すのか・どこへ行くのか・何をすべきなのか…」を残すのみということです。昨年の6月にスタートしたスクール、一回/月のペースとはいえ、やる方も聞く方もなかなか大変なものがありました。でも皆勤賞の方もいらっちゃって運営側としては嬉しいことです。修了証書を差し上げることになっていますが、その報告は次号ということになります。

来年度のスクールは、今年度の反省と見直しを踏まえて、内容・カリキュラムを再構築し5月からスタートします。詳しくは改めてご案内を発送することになりますが、背景となる基本的考え方と構成・概要を次のページに紹介いたしますので、是非ご参加ください。

最後になりましたが、これまで講師をボランティアで担当していただいた皆さん、そして裏方をお手伝いいただいた多くの皆さんに、運営委員会より厚く御礼を申し上げます。でも新しいスクールも始まるので、引き続きよろしくお祈りしますね!

(リポート 寺井 洋)



◀ スクール-9. とにかく百聞は一見に如かず。TDAならではのサンプル拝見です。



スクール-9. 普段見ることの出来ないサンプルに興味が集



▶ スクール-9. 講義にも内容がありますが、ビジュアルがあるとやはり…